

ンと絶間なく鐘の音が響きます、此響は今日一日と禮拜を怠らむとする國民を教會に呼ぶものであり、國民の信仰を覺まして、社會的精神教育をする響であめまします。

▲英國の母は子供を幼稚園や學校に託す時、人の評判に依つて又は入學者の多少に依つて我子の教育處を定めませぬ。必ず其園主なり、校長に面會して、其人格を信じての後に教育を託します。

▲又家庭に在つては、殊に男兒のお行儀に注意して常に無晴に叱る計りでなく、「お前は立派な紳士ではないか」と云ふ育て方を致します、夫れ故に幾程、亂暴な男兒でも、「立派な紳士」と云ふ自信を傷けられる事が嫌やさに、謹み深くなるのであります日本でも自づからそのしきたりはありまして、男子を先きに立てる事は出来て居りますけれども、まだ、日本のお母様の氣の付かぬ事が多い爲めに、男兒が成長するに夜おそくまでお酒を飲んで、他人の迷惑も思はずドンチャン騒いだりする事があるのは、誠に嘆かましい次第でございます。

▲英國の家庭から國民に感化を及ぼすのは、以上述べた通りであります、考へて見ますと、日本の家庭の親子本位は、即ち先祖崇拜の美は、人情から起つたもの、神前や佛壇への朝夕の禮拜は、英國の家族祈禱會と同じ意味のもの、何うか日本特有の美點を失はない様にして、我々は益々家庭教育を進歩させたものだと思つて感ずるのでございませぬ。

兒童と金錢

鳩山春子夫人談

▲貯蓄思想の涵養 私の実験に依りますと子供が未だ幼稚園に通つて居る時代から貯蓄思想を涵養する事が最も大切であらうと思ひます、無論幼稚園時代には金錢の勘定も出来ない位のもので、其如何計り貴いものであるかなど云ふ事の解らう筈はありませぬが夫れが段々成長して來るに伴れて自然金錢の尊いものである事を知り得るので

す、然し唯無暗に金銭を尊がらせると遂には所謂
守銭奴となる弊がありますから是は餘程注意しな
ければなりません。

▲貯金の方法　で私の經驗をお話し致しますれば
私は前申しました通り子供が幼稚園に通つて
時代から貯金をさしてやりました、其の方法は幼
稚園へ歩いて行つた時には其車代を貯金させるの
でよいです、又子供の日用品とか何んとか云ふも
のは一切私を買つてやりませうから子供は自分で
一厘半銭の金を持つ必要は有りませぬ、尤も小學
校時代からは毎日車代の外に辨當代と云ふものを
少し多い目に、例へば辨當代が七銭入ると思へば
十銭位宛やつて其の残りも貯金させました、而し
て是が小學校から中學校、高等學校と進むに伴
て其の額は随分夥しいものになりました、けれ
ども子供は殆んど此貯金を費つた事は無いませ
んでした、是は子供自身の貯金でよいですが別
に子供の分として子供には知らさず毎月幾何つ
貯金して來ました

▲地圖を買つてやる　以上の外に私は子供に地圖

や繪畫を書かして夫れを一枚幾何かで買つてやり
ました、無論紙や繪具などは總て私から提供して
やりました、而して夫れも貯金させました、是は
唯貯蓄思想を養ふ許りでなく子供が餘り此方面に
趣味を持つて居なかつたから美術思想を養ふ一助
としてやりましたのでよいです、唯地圖を寫せとか
繪を書いて見るとか云つたからとて元來餘り好き
でない子供に之を強めるのは却て苦痛を感じさせ
る位のものだと思つたから一枚幾何づゝで買つて
やる事にしたのでよいです。

▲監督が大切　斯う云ふ風で貯金は殆んど獎勵的
にやらせましたが子供は餘り之を出して使はうと
はしませぬでした、是は前申しました通り必要な
日用品は悉く私を買つて與へたからでよいしまし
やう、然し子供が斯う云ふものが必要だから貯金
を出して下さいと云へば縱令夫れが贅澤品だ餘計
な事だと思つても悪い事ではない以上は大抵は云が
儘に買はしました、けれども是は極で稀でよいま
した

▲思ひ切つた使ひ方　斯んな風に平常は餘り使ひ

ませんでしたが其代り使ふ時には随分思切つた使
ひ方を致します、一例を挙げますれば何時かも兄
弟二人で薔薇を買つて来ると云ふから二三十錢位
買つて来る事と思つて居ましたら驚くぢや無いま
せんが一度に五圓も買つて来ました、而して夫れを
何うするかと見て居ましたら二人で屋敷中に植ゑ
て了ひました、殊に私の部屋の前には立派なの許
りを選んで澤山植ゑて呉れました其外オルスン、
ピアノ、玉突きなど云ふ金目なもの許り買つて来
ますが私は曾て一度も夫れを拒んだ事は無いませ
ん、要するに幼少時代から貯蓄思想を養つて置く
事が肝要だらうと思ひます。

家庭の感化

江原素六氏談

國家に必要な事は、先づ之を學校に輸入せよと云
ふ事は、全く眞理であります、明治三十三年十月
三十日の教育勅語、更に四十一年十月十三日戊申

詔書を賜りまして我々國民を指導しさせ給ふ大御
心は深く人民の感謝に堪へぬ所でありまして學校
は云ふに及ばず、苟も學校に關係のあります種々
の集會で、必ず教育勅語、詔書を捧讀するのは誠
に其宜しきを得た途でありますが更に注意せねば
ならぬのは、學校で訓育せねばならぬものは、先
づ家庭に入れると云ふ事で、何故かと申せば家庭
はあらゆる人道の要素が備つて居る所でありまし
て、實地に於ける親子間の道德夫婦間兄弟間姉妹
間親族間雇主と被雇者間の道德其他總ての社會的
道德杯數へますれば、人道の問題一として備らぬ
ものはありません夫れですから教育勅語戊申詔書
の實を擧げるには、家庭訓育の力も併せて俟たね
ばならぬのです、爾うならば家庭の改善は眞に目
睫の急務であつて、家庭の改良に力を用ひないで
社會の改良を求めろのは全く木に縁て魚を求めろ
のと同じであると云へる第何期の議會でしたか貴
族院の一議員が時の文部大臣菊地大麓君に向つて
帝國大學設立以來多くの卒業者を出したけれど未
だ人才が出来ないかと云ふ質問に大臣は言下に答